

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	グランマの家 八太		
○保護者評価実施期間	令和8年1月19日	～	令和8年2月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 6名	(回答者数)	6名
○従業者評価実施期間	令和8年1月19日	～	令和8年2月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人一人のその日の遊びや活動などの過ごし方に沿った異なる空間が整備されており、それぞれが自身の意思で行き来しながら過ごすことができる。	その日利用する子どもたちの特性や、その日の子ども同士の間わり、前日や過日の子どもの遊びの続きなど、当日の子どもたちの過ごし方を日々のミーティングで共有し、必要に応じて事前に仕込みや準備を進める。	
2	四季折々の季節を感じながら楽しむことができるイベントや活動内容が多く含まれる。年間を通して実施される活動に加え、タケノコ掘り、スイカ割り、栗拾い、野菜の植え付け～収穫、大根掘り、焼き芋、芋掘り、味噌づくり、餅つき、かき氷作り、流しそうめんなどを例年実施している。	普段の遊びを含め、年間のイベントや活動に関しても、「する」「しない」は自分の意思で決めるようにしている。今回(今年)は参加せずに周りでみんなの様子を観察し(より認知が深まってから)翌年参加するケースもあったり、気持ちに乗らずに参加しないケースもあったり、途中まで参加したけどリタイアしたり、前日まではやる気満々だったが当日はその気持ちではなかったりと、一人一人の判断(結果)は多岐にわたるが、自分がその判断をした理由をしっかりと認識し、次はどうするか、どうすれば良いかななどを思考し、次回の自分の判断に繋げることを繰り返すことが大切であると考え、ため、「参加する」「しない」「やめる」などの判断は尊重するように意識している。	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所で過ごすお友だち以外の人たちとの交流や関りの機会をもう少し提供することができるようにできればと考えている。	フリースクールの子どもの間での交流や、地域の方々や外国の方を招いたり、事業所以外の人々との交流の機会を企画し実施してはいるが、定着化までには至っていないことが課題である。要因としては限られた放課後の短い時間で行き来を含めなくてはならないという物理的な制約が大きい。	児童発達支援サービスと児童クラブ・学童などとの併設や子ども自身がどの事業所に通えるかをある程度自由に選択しながら過ごすことができるような仕組みなど、制度面での改革が必要である。